

# 仙台自立の家後援会報

～ 第55号 ～

発行日:2025年 4月1日  
発行責任者:仙台自立の家後援会  
会長 馬場 護

〒989-3206 仙台市青葉区吉成台2丁目12-24  
TEL 022(303)0260 FAX 022 (719) 4055  
ホームページ <https://www.5e.biglobe.ne.jp/~sjiritu/>



## 優良私設社会事業団体として御下賜金を賜りました

法人が優良民間社会福祉事業施団体として御下賜金を賜りました。

これは仙台自立の家を運営する社会福祉法人仙台市肢体不自由児者父母の会が仙台市から宮内庁へ推薦されて下賜が実現しました。長年にわたる法人並びに仙台自立の家関係者の努力が認められたもので、仙台自立の家後援会としてもこの上ない喜びです。心からお祝い申し上げます。この機会に尾暮施設長に御下賜金と伝達式の様子等を紹介して頂きます。

天皇陛下は、毎年2月23日の誕生日に際し、社会福祉等の事業御奨励のため、全国の優良民間社会福祉事業団体67団体に対し金員を下賜されています。

このたび社会福祉法人仙台市肢体不自由児者父母の会が優良民間社会福祉事業団体として御下賜金を賜りました。

御下賜金は、2月25日に仙台市役所特別応接室において郡和子市長より松田廣勝理事長に伝達されました。

伝達に先立ち、仙台市が法人認可権者になり認可第1号として認可したのが当法人であること、身体障害者通所授産施設仙台自立の家を開設以来27年にわたり継続して活動していることを評価して推薦に至ったことを知りました。

ごかしきん  
伝達書は流麗なとても上品な書体で書かれており、金一封も大きくて優雅な水引で結ばれています。この水引は皇室専用の水引で、黒に見えますが実は非常に深い玉虫色。紅花染料で何度も何度も染め絞ることで生まれる「<sup>くれない</sup>紅水引」と云うそうで、とても美しいものです。

本多前理事長をはじめ、多くの先達が繋いでこられたこの事業を、さらに発展させていこうと思いを新たにいたしました。(尾暮)



仙台市役所特別応接室にて<sup>ごおり</sup>市長と

社会福祉法人  
仙台市肢体不自由児者父母の会殿

宮内庁長官 西村泰彦

令和七年二月二十三日

お伝えいたします

賜りましたからこの旨

思召をもって金壱封を

今般その事業御奨励の



## 東日本大震災を振り返って

### <災害の多い日本列島>

2011（平成23）年3月11日（金）に発生した東日本大震災から丸14年となりました。その後も各地で地震や豪雨・豪雪、林野火災など大きな自然災害が発生しています。被災地となった地域には、災害からの復旧と復興が大きな課題です。自治体を通じた援助、専門機関による対策、民間からの息の長い支援が求められるところです。

東日本大震災発生時のことを思い出すと、仙台自立の家の電気や水道・ガスは止まり、野菜栽培装置が機能不全、焼き菓子製造や印刷関係の仕事もできなくなりました。このため、水耕野菜はどんどん立ち枯れてゆき、加工できない食材の廃棄も続きました。

### <ありあわせの製品を持って路地へ>

とにかく今出せる在庫を地域に提供しようと思い、残っていた野菜や焼き菓子など在庫合わせの製品を移動販売車に載せて路地へ出しました。当時は食べものや日用品が全く手に入らなくなっていたので、野菜やお菓子、ローソク製品はたちまち売り切れしました。しかしその後予定されていた販売活動は、すべてキャンセル。販売スケジュールは4月下旬まで真っ白なままでした。

また各所の交通機関も止まってしまい、施設への通所を本格的に再開したのは5月9日でした。このため月々の工賃支給も大幅に減額せざるを得ませんでした。

### <ミンナ de カオウヤプロジェクト>

このころ、大阪の支援団体から施設製品を販売したいと温かい手が差し伸べられました。生産活動を再開したものの、販売活動ができずとても困っていた時でしたので、さっ

そくクッキーやパウンドケーキを作り発送しました。その後も2年近く注文をいただき、工賃の原資となる資金源に多大な協力をしていただきました。

### <災害は地続き>

仙台自立の家でも、日頃から地域の方から物心両面にわたり支援をいただいていることから、苦しい時はお互いに助け合おうという気持ちで、震災の被災地に義援金を送ることにしました。その義援金は2011年5月から7月までの売上金の10%とし、利用者、職員一丸となって販売活動に取り組みました。その結果およそ7万円を社会福祉協議会を通して被災地に寄付いたしました。

災害は地続きです。どこか遠くで起きた影響も巡り巡ってこちらに届きます。だから「困ったときにはお互いに助け合う」ことは当然です。しかし、「どのようなつながりを持っているか、ふだんその繋がりをどのように大切にしているか」を施設は考えておく必要があるように思います。大阪の支援団体とは、その後も形を変えて交流が続いています。交流することも恩返しに繋がると思って誠実に勉めています。



「絆」がテーマになった夏祭り(2011)

## ◆◆利用者インタビュー◆◆

### 三塚白石さん(71歳)

2007年(平成19年)の11月から自立の家に通所されています。手工芸班に所属し、若い方のお世話をしながら仕事をされてきました。外部販売に際しては、休日などにも顔を出し下さり感謝しています。

赤間：自立の家に17年通っていますが、通い続けられたのはどうしてですか？

三塚：手工芸班の作業が自分に合っていたからです。

赤間：3月になりますか、東日本大震災の思い出はありますか？

三塚：震災の次の日、小学校の体育館に避難しました。自宅は、地震で物がいっぱい落ちていて暮らすことができませんでした。

赤間：大変でしたね。その頃は、誰もが体験したことのない地震で不安でいっぱいでした。

三塚：自分にとっては今まで生きてきた中で2番目に大きい地震でした。1番目は、宮城沖地震です。その時も、大きな地震で冷蔵庫が動いたのを覚えています。

赤間：これからも自然災害は起こるものです。生活の中で備えは必要ですね。

三塚：そうですね。なかなかできないところもありますが心掛けていきたいです。

赤間：皆さんも日々の生活の中で意識しながら災害の備えをしていきたいものですね。



## 吉成界限散歩 (その1) 【仙台大観音】



仙台大観音が自立の家の近くにあります。いつも優しい顔で私たちを見守っています。

この仙台大観音は、仙台市制100周年を記念して建立された、高さ100メートルの巨大な観音像です。白衣観音で諸仏を生ずる観音の母とも言われており、三十三観音の一つになります。内部に入ることもでき、吹き抜けのらせん階段になっています。胎内は12層に分かれており、108体の仏像や12神将が安置されています。最上階の小窓からは市内が一望できます。春には桜、秋には紅葉が楽しめます。どうぞ遊びに来て下さい。

## 令和7年度仙台自立の家後援会総会のご案内

下記により令和7年度仙台自立の家後援会総会を開催いたします。ご多用中とは存じますが、出席下さるようお願いいたします。

- ・日時：令和7年5月10日(土)11時～12時
- ・会場：仙台自立の家 TEL022-303-0260

\*送迎：地下鉄旭ヶ丘駅より(10時30分発)

ご希望の方は自立の家まで連絡ください。

\*バス：地下鉄泉中央駅①番乗り場 仙台市営バス南吉成行き9時40分発乗車、「国見ヶ丘1丁目北」下車、徒歩5分です。

### 会費納入のお願い

後援会員の皆様には、会費納入にご協力頂き、誠に有難うございます。会費は3,000円以上任意となっております。会費は利用者への昼食提供と期末工賃補助、会報の発行などに使わせて頂いております。

2月末段階でまだ納入を頂いていない方に振込取扱表を同封致しますのでご協力よろしくお願ひ申し上げます。

### 令和6・7年度仙台自立の家後援会役員

参与	松田 廣勝	尾暮 耕司
顧問	渡部 馥	
会長	馬場 護	
副会長	菅原 貞子	
会計	及川 弘子	桑原 真紀
庶務	今野 得子	佐藤 智子
監事	星 研良	野家志津子

### 編集後記

1998年の開所以来、後援会会報は年2回発行され続けて、今号で第55号となりました。

会報を振り返ってみると、後援会の施設への援助活動、施設の抱えている問題、利用者の施設での活動の様子、利用者の施設に対する希望や思いなどが掲載されています。

その間、利用者・職員はもとより施設関係者が一丸となって、さまざまな問題を乗り越えて今日に至っています。その原動力の一端は、毎

号の会報にある通り、後援会活動が担ってきたといっても過言ではありません。

今日の社会・経済状況からすると、施設の置かれている立場は厳しいものがあります。加えて、後援会会員の減少といった問題もありますが、皆様方の特段のご理解を賜り、これまで同様に施設支援を継続していければと願うものです。



期 間 2025.4.1 ~ 4.30

今年もギフトコレクションの季節がやってきました！

「2024・冬」では、おかげさまで198,300円の売り上げがありました。あらためて御礼申し上げます。同封いたしましたチラシからご注文頂けるとうれしいです（インターネットご利用の方は仙台自立の家サイトをご覧ください）。